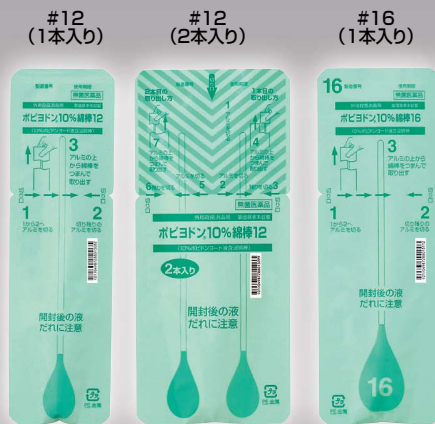


# ポピヨドン<sup>®</sup>10%綿棒12・16

10%ポピドノード液含浸綿棒



## 特徴

- 日局無菌試験に適合した製剤です。
- グラム陽性菌・陰性菌、真菌、結核菌及びHBV・HIVを含む一部のウイルスに有効です。
- 殺菌作用は持続性があります。
- 携帯に便利です。
- 薬液使用量の無駄がありません。
- 開封後すぐ使用できますので、在宅医療にも適しています。
- 豊富な包装規格をとり揃えています。

**禁忌**(次の患者には使用しないこと)  
本剤又はヨウ素に対し過敏症の既往歴のある患者



ヨシダ製薬

# ポピヨドン®10%綿棒12・16は10<sup>w/v</sup>%ポピドンヨード液を綿棒に含浸させた製剤で、院内における10<sup>w/v</sup>%ポピドンヨード液含浸綿棒作製の作業時間及びコストの削減を可能にした医療用医薬品です。

## 有効性

### 各種細菌・真菌に対する殺菌効果<sup>1)</sup>

ポピヨドン®10%綿棒12について、各種細菌および真菌(酵母)に対する殺菌力試験を行った。その結果、グラム陰性菌3菌種およびカンジダは30秒、黄色ブドウ球菌、表皮ブドウ球菌は1分、また*E. faecalis*は5分で、それぞれ殺菌された。

供試菌株		殺菌時間
グラム陽性菌	<i>Staphylococcus aureus</i> ATCC6538	1分
	<i>Staphylococcus aureus</i> (MRSA) CI	1分
	<i>Staphylococcus epidermidis</i> JCM2414	1分
	<i>Enterococcus faecalis</i> JCM5803	5分

CI:臨床分離株

供試菌株		殺菌時間
グラム陰性菌	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> ATCC15442	30秒
	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> CI	30秒
	<i>Escherichia coli</i> ATCC10536	30秒
	<i>Serratia marcescens</i> JCM1239	30秒
真菌(酵母)	<i>Candida albicans</i> ATCC10231	30秒

1) 社内資料:「ポピヨドン®10%綿棒12の殺菌力試験」

## 外用殺菌消毒剤

薬価基準未収載

無菌医薬品



手術部位の皮膚 手術部位の粘膜 皮膚の創傷部位 粘膜の創傷部位 感染皮膚面 熱傷皮膚面

# ポピヨドン®10%綿棒 12・16

Popiyodon 10% cotton stick 12・16 ●10%ポピドンヨード液含浸綿棒

効能・効果、用法・用量、警告、禁忌(原則禁忌を含む)、使用上の注意等の改訂にご留意下さい。

販売名	ポピヨドン®10%綿棒12	ポピヨドン®10%綿棒16
日本標準商品分類番号	872612	
承認番号	22200AMX00225000	22200AMX00698000
薬価収載	薬価基準未収載	
販売開始	2010年2月	2010年9月

貯法: 直射日光を避けて室温保存 使用期限: 3年(容器等に記載)

## 禁忌(次の患者には使用しないこと)

本剤又はヨウ素に対し過敏症の既往歴のある患者

## 組成・性状

### 1. 組成

販売名	ポピヨドン®10%綿棒12	ポピヨドン®10%綿棒16
成分・含量	本溶液1mL中ポピドンヨード100mg(有効ヨウ素として10mg)	
担体	綿棒	
添加物	ラウロマクロゴール、グリセリン、乳酸ナトリウム、ヨウ化ナトリウム、pH調整剤	
含浸量	綿棒1本あたり本溶液2.5mL	綿棒1本あたり本溶液4mL

### 2. 製剤の性状

本溶液は暗赤褐色の液であり、わずかに特異なにおいがある。

## 効能・効果

手術部位(手術野)の皮膚の消毒、手術部位(手術野)の粘膜の消毒、皮膚・粘膜の創傷部位の消毒、熱傷皮膚面の消毒、感染皮膚面の消毒

## 用法・用量

- 手術部位(手術野)の皮膚の消毒、手術部位(手術野)の粘膜の消毒:本剤を塗布する
- 皮膚・粘膜の創傷部位の消毒、熱傷皮膚面の消毒、感染皮膚面の消毒:本剤を患部に塗布する

## 使用上の注意

### 1. 慎重投与(次の患者には慎重に使用すること)

- 甲状腺機能に異常のある患者[血中ヨウ素の調節ができず甲状腺ホルモン関連物質に影響を与えるおそれがある。]
- 重症の熱傷患者[ヨウ素の吸収により、血中ヨウ素値が上昇することがある。]

### 2. 副作用

総症例2,377例中副作用発現は4例0.17%であり、その内容は痒疹2例、灼熱感1例、発疹1例であった。(再評価結果)

#### ※(1)重大な副作用

ショック、アナフィラキシー(呼吸困難、不快感、浮腫、潮紅、蕁麻疹等)(0.1%未満)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、直ちに使用を中止し、適切な処置を行うこと。

#### (2)その他の副作用

種類\頻度	0.1%未満
過敏症 <sup>※)</sup>	発疹等
皮膚	接触皮膚炎、痒疹感、灼熱感、皮膚潰瘍、皮膚変色
甲状腺	血中甲状腺ホルモン値(T <sub>3</sub> 、T <sub>4</sub> 値等)の上昇あるいは低下などの甲状腺機能異常

注) 症状があらわれた場合には、使用を中止すること。

### 3. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊娠中及び授乳中の婦人には、長期にわたる広範囲の使用を避けること。

### 4. 臨床検査結果に及ぼす影響

酸化反応を利用した潜血試験において、本剤が検体に混入すると偽陽性を示すことがある。

### 5. 適用上の注意

#### (1)使用部位

外用にのみ使用すること。

#### (2)使用時

ア) 大量かつ長時間の接触によって接触皮膚炎、皮膚変色があらわれることがあるので、溶液の状態でも長時間皮膚と接触させないこと。(本溶液が手術時に体の下にたまった状態や、ガーゼ・シーツ等にしみ込み湿った状態で、長時間皮膚と接触しないよう消毒後は拭き取るか乾燥させるなど注意すること。)

イ) 眼に入らないように注意すること。入った場合は、水でよく洗い流すこと。

ウ) 石けん類は本剤の殺菌作用を弱めるので、石けん分を洗い落としてから使用すること。

エ) 電気的な絶縁性をもっているため、電気メスを使用する場合には、本溶液が対極板と皮膚の間に入らないように注意すること。

### 6. その他の注意

- 本溶液を新生児に使用し、一過性の甲状腺機能低下を起したとの報告がある。
- ポピドンヨード製剤を腔内に使用し、血中総ヨウ素値及び血中無機ヨウ素値が一過性に上昇したとの報告がある。
- 本溶液を妊婦の腔内に長期間使用し、新生児に一過性の甲状腺機能低下があらわれたとの報告がある。
- ポピドンヨード製剤を腔内に使用し、乳汁中の総ヨウ素値が一過性に上昇したとの報告がある。

## 取扱い上の注意

- 本剤は体腔内(腹腔内、胸腔内等)に使用しないこと。
- 綿棒や薬液を継ぎ足して使用しないこと。
- 綿に指が触れないよう注意すること。
- 衣類についた場合は水で容易に洗い落とせる。また、チオ硫酸ナトリウム溶液で脱色できる。

## 包装

ポピヨドン®10%綿棒12:1本入り×50、2本入り×50  
ポピヨドン®10%綿棒16:1本入り×50

製品名	規格	調剤包装単位コード	販売包装単位コード
ポピヨドン®10%綿棒12	1本入り×50	(01)04987288013082	(01)14987288013010
	2本入り×50	(01)04987288013099	(01)14987288013027
ポピヨドン®10%綿棒16	1本入り×50	(01)04987288013112	(01)14987288013034

※2015年7月改訂(ポピヨドン®10%綿棒12)、2015年6月改訂(ポピヨドン®10%綿棒16)



ヨシダ製薬

製造販売元

吉田製薬株式会社  
埼玉県狭山市南入曽951

【製品情報サイト】 <http://www.yoshida-pharm.jp/>

資料請求先

吉田製薬株式会社  
東京都中野区中央5-1-10  
Tel: 03-3381-2004

©1609KK  
400065  
2016年9月作成